

第4回 東京都における地域公共交通の在り方検討会 議事概要

1. 日時

令和3(2021)年6月4日(金曜日) 13時30分～15時00分(オンライン開催)

2. 議事

- (1) 検討の進め方
- (2) 目指す将来像と実現に向けたステップ
- (3) 区市町村の現況と取組・支援の視点
- (4) 将来像を実現するための取組の検討
- (5) 意見交換

会議の冒頭に、轟座長から以下のご挨拶がありました。

- 2040年の将来像だけでなく、目の前の課題にもしっかり対応し解決していく事も重要
- 本日は、具体的な取組等に関して、ご意見を頂き議論を深めたい。

その後、事務局より議事についての説明と議論を行いました。

委員からの意見は以下のとおり。

■ 将来像を実現するための取組の検討について

- 本検討会では、長期的な視点だけでなく、コロナ対策で何をやっていくのか、短期的な視点・目標設定も欠かせないと思う。長期的な需要の減少に対応する政策のパッケージ化が必要
- 利害関係が多く発生するような施策の実施に向けては、都の担当者が、区市町村の地域公共交通担当者や交通事業者と、コミュニケーションの強化を図ることが重要
- データ利活用に向けては、広域的に考える必要があり収集、流通させるといった部分で、都の役割は大きい。
- 環境の視点から、「AVOID、SHIFT、IMPROVE」や「グリーン成長」といったキーワードも取り入れながら、検討を進めていければ良いと思う。
- バス事業者にヒアリング等を実施し、連携・協力をしながら地域公共交通を考えていくべき。

- 「東京都ならでは」という視点では、人、資金のノウハウの集積をうまく組み合わせ取入れて、他分野と公共交通とを連携していけると良い。
- 公共交通に関するデータ収集、流通の参考事例として、山形県では、データの収集等ルールを定め、「やまがた公共交通オープンデータプラットフォーム」を設けている。他県の良い事例なども取り込んでいけると良いと思う。
- 本日挙げた議題は、都庁内で様々な部局に関係するものである。都庁内の連携を意識できると良い。
- 区市町村の地域公共交通計画策定の促進策を検討するとともに、都も区市町村と一体的に取り組むことが重要。モデル的に好事例を生む取組について、できることから着手するのが望ましい。
- ラストマイル対策や、新しいモビリティ導入などの取組に対する支援策の検討も必要

以上